

# ものづくり事務棟

Monodukuri Office Building

No. 05-023-2012作成

新築  
事務所

発注者	矢崎総業株式会社	カテゴリー	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO <sub>2</sub> 技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB
設計・監理	KAJIMA DESIGN	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
施工	鹿島建設	I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

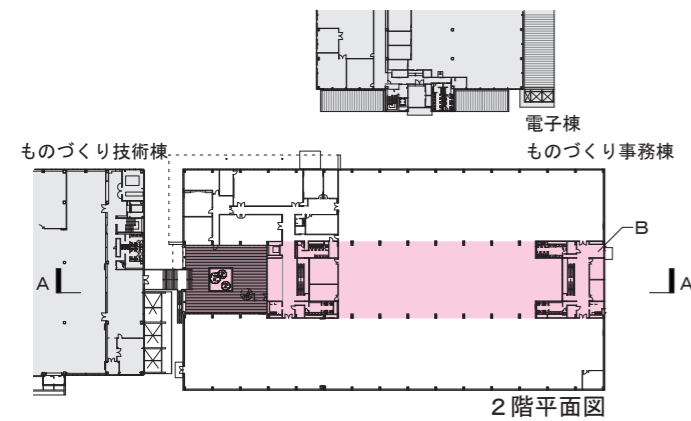
## 環境・人・情報を繋ぐ「ものづくりセンター」



大きな門構えのファサード

### 新たなものづくりに挑戦する施設

製品の設計段階から調達・生産・営業・管理までをつないだ一体的な活動により、革新的な「新たなものづくり」の仕組みの構築を目指した施設である。環境・人・情報を繋ぐ「ものづくりセンター」は、新築した「ものづくり事務棟」、既存施設を改修した「ものづくり技術棟」と「電子棟」の3棟を主役として構成される。「ものづくり事務棟」は全体のハブとなる施設である。



この施設は、下記の3点を設計テーマとして計画した。

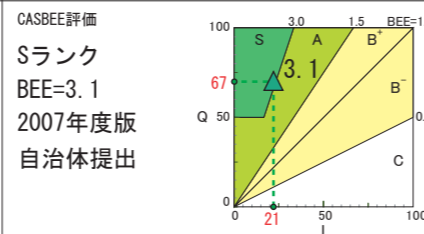
- ①コミュニケーション：
  - 新たな発想・開発に繋げるため、設計・開発担当者間の知的交流を活性化させる「場」の構築。
- ②フレキシビリティ：
  - 開発の場として様々な使い勝手に対応できるユニバーサルな執務スペースの創出。
- ③ハーモニー：
  - 地域環境・地球環境への調和。



両翼の執務スペースでコアを挟み込むように3分割したゾーニング

建物データ	所在地	静岡県牧之原市
竣工年	2012年	
敷地面積	65,916 m <sup>2</sup>	
延床面積	12,269 m <sup>2</sup>	
構造	S造	
階数	地上2階	

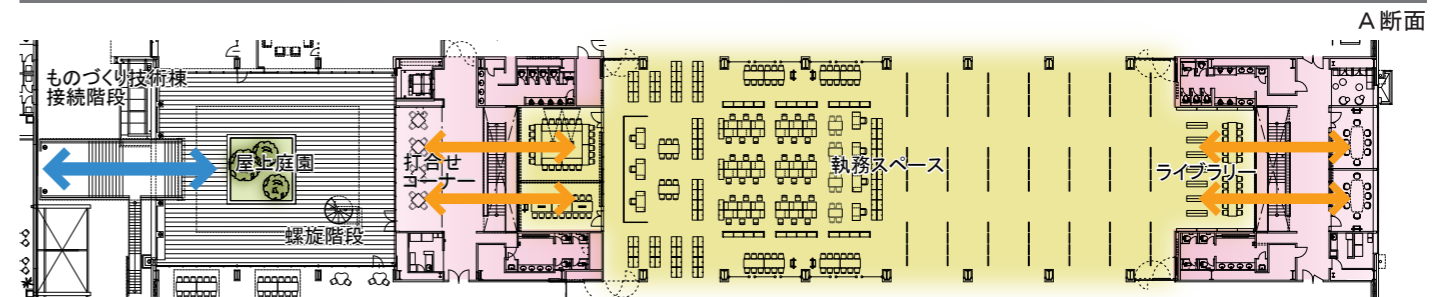
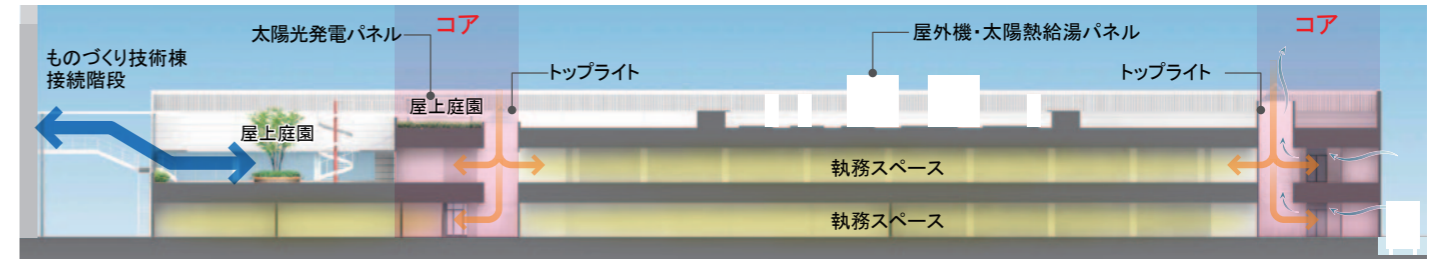
省エネルギー性能	PAL削減	25 %
ERR (CASBEE準拠)		26 %



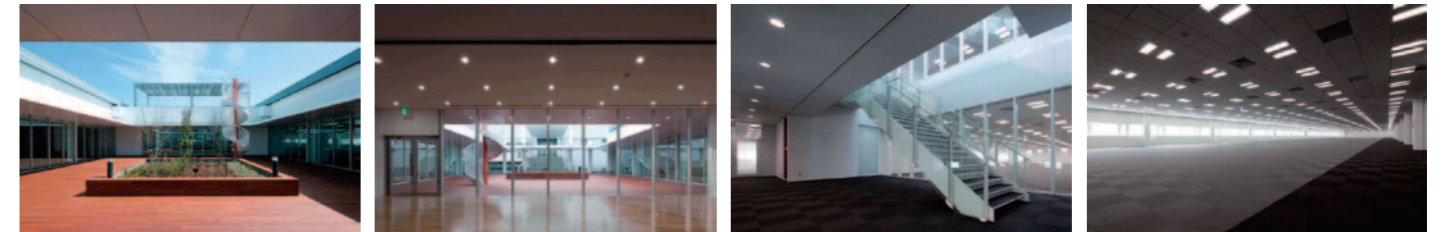
### コミュニケーション/フレキシビリティ

平面は108m×56mのプレートを長手に3分割したゾーニングとした。両翼の執務スペースに挟まれた中央の東西2か所に階段を含むコアを配置し、それぞれの上部にトップライトを設けて明るく開放的なコアとした。更に、コアに面してガラス面を設け、執務スペースへも外光を取り入れた。コアの軸線上にコミュニケーションを誘発する屋上庭園や打合せコーナー等を設けた。

屋上庭園での話し合いや2階と屋根上の屋上庭園を往来してリフレッシュすることにより、設計・開発担当者の交流を促し、イノベーションの創出と生産性の向上を目指した。また、梁間はロングスパンのラーメン構造とし、桁行はブレース構造としてコアにブレースを集中させ、無柱で将来の間仕切り変更にフレキシブルに対応できる執務スペースを実現した。



B部平面



豊かな発想を育む屋上庭園 屋上庭園に面した打合せコーナー トップライトにより明るい階段 無柱でフレキシブルな執務スペース

### ハーモニー

「周辺環境への配慮」、「省エネルギー」、「省資源、リサイクル」の3つのコンセプトに基づき地域・地球環境への調和を目指した。そのコンセプトを、全ての自社製品に対して「限りある地球資源を有効活用する製品」を標榜する発注者の製品を最大限に活用して実現した。具体的には、太陽光発電パネル、太陽熱給湯

パネル、木質ペレット焚吸収冷温水機の利用による自然エネルギーの利用とCO<sub>2</sub>排出量の削減、静岡県リサイクル認定品である廃ガラスをリサイクルした軽量土壌の利用などである。その他にもBEMSの導入によるエネルギーの適正管理、高効率熱源機器や高効率照明器具の利用による設備システムの高効率化、照明や空調のきめ細かなゾーニング制御などを行った。



太陽熱給湯パネル 木質ペレット焚吸収冷温水機 廃ガラスのリサイクル軽量土壌材 太陽光発電パネル

設計担当者

コーディネーター：早船 雅之/建築：安藤 俊彦 松田 行裕/構造：前坂 尚志 田村 嘉章/設備：竹ノ谷 英俊 岩本 耕介 近藤 満徳 山賀 慎也

### 主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q2.3. 対応性・更新性 (階高・荷重のゆとり、空間形状・自由さ、設備の更新性)
- Q3.3. 地域性・アメニティへの配慮 (地域性のある材料の使用、防犯性の配慮、社会環境報告書の作成)
- LR1.1. 建物の熱負荷抑制 (PAL性能向上、高性能ガラスの使用)
- LR1.2. 自然エネルギー利用 (昼光利用、太陽光発電、太陽熱給湯)
- LR2.1. 水資源保護 (節水型機器・擬音装置の使用)
- LR3.3. 周辺環境への配慮 (グレアの抑制、敷地外への熱的な影響低減、設備から大気への排熱量低減)